

高気圧障害の知識に関すること

減圧症

減圧症は潜水や圧気潜函工事などの高圧暴露（高い気圧環境内に入る）後、大気圧へ減圧することにより、体内の窒素ガス等の不活性ガスが過飽和になって発症する障害を示します。

ビールやコーラの栓をゆっくりあけると泡がたちにくいですが、イッキに空けると泡がたつ現象と同じだと言えます。これを過飽和と言います。

しかし、体内で気泡が発生し血管に詰まって減圧症を引き起こすわけではありません。

では減圧症にはどのような症状がるのでしょうか？

- ・ 皮膚の搔痒感（そうようかん）

皮膚の痒み（かゆみ）は減圧症において良くみられる訴えです。

程度も軽微なものから激しいものまでさまざまですが、痒みの激しいものは重篤な減圧症の一部又は前触れであることが多いようです。

- ・ 皮膚の発赤

皮膚の発赤（ほっせき）もよく見られます。痒みや痛みを伴い大理石斑（だいにせきはん）として知られています。

- ・ 四肢の痛み（ベンズ）

四肢の関節や筋肉の痛みは減圧症においてもっともよく見られる訴えです。その程度もきわめて軽微なものから激烈なものまでさまざまです。ごく短時間の痛みや違和感を訴えることもあります。

上記二つの皮膚の搔痒感や発赤を併発する場合があります。

これらを I 型減圧症と呼びます。

これら以外の症状を伴う減圧症を II 型減圧症と呼びます。

- ・ リンパ浮腫

気泡によりリンパ管が閉塞し浮腫が発症することもあります。

リンパ浮腫から徐々に中枢神経障害などの重症形とされる病態のひきがねとなることが多い。

- ・ 脊髄型減圧症

脊髄形減圧症とは字の如く脊髄が冒される減圧症です。

脊髄神経は四肢の知覚や運動を司る神経ですのでこれが障害を受けた場合は四肢の感覚障害や運動麻痺をおこします。

- ・ 脳型減圧症

脳型減圧症とは痙攣発作や意識障害等をおこすもっとも激烈な減圧症です。

減圧表や減圧時間・暴露圧・暴露時間を守らずに無謀な高圧室内作業を行った場合にみられます。

逆に言えば、減圧表を守っていれば、このような減圧症に罹患することはまずありません。

- ・ 肺型減圧症（チョークス）

肺の減圧症はチョークス（choke=息がつまる）として知られますが、その名の通り息切れや呼吸困難・胸痛・あるいは血痰などを訴える重篤な減圧症です。

この病態も減圧表を無視した無謀な減圧の結果起こるとされています。

肺型減圧症から脳型減圧症・動脈空気塞栓症など多彩な以上をきたす可能性があります。

- ・ 内耳形減圧症

内耳は聴覚のほかに平衡感覚（バランス）も司ってますから、内耳の減圧症になるとめまいや吐き

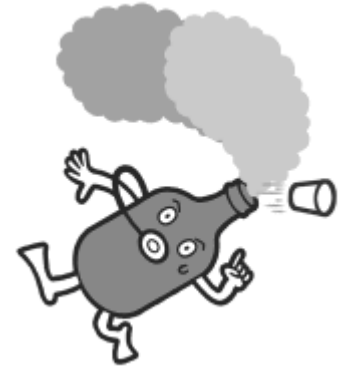
気、嘔吐、難聴に襲われます。このときのめまいは通常ふらふらというより回転感を伴います。

患者の目には眼振（眼球が一方方向にすばやく振れる）が見られます。

- ・ その他の減圧症

減圧症は基本的に気泡によって発生します。そして、気泡は体内のどこでも発生することができますので、発生した部位により多彩な病形・異常をしめすことがあります。

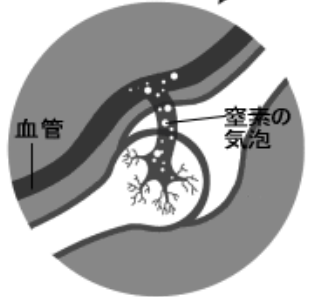
ショック（循環不全）・腰痛・ウイルス感染症類似・顎関節障害等 色々な記録があります。



体の中が泡だらけ



ベンズ



窒素の気泡

血管